「チェックポイント」誌ケヴィン・コーテ氏への書簡

ベルリン、1995年1月8日

check point

Linienstr. 155

10115 Berlin

ケヴィン・コーテ様

拝啓

親愛なるケヴィン

マオタイの友人であるあなたに、ベルリンにおいしいタイ料理を広めたいという私の願いを、世に知らせていただけないかとお願いしたく、筆を執りました。

官庁は、東側のオラニエンブルガー通りでの小さなタイ料理店の開店を妨げています。この官僚的な妨害政策について最終的にどのような理由が持ち出されるのか、私には分かりません。良く言えば業務過多、むしろ怠慢でしょう。しかし私にとって決定的なのは、就労許可と滞在許可の交付政策の不条理さです。

私のもとで働くタイ人やアジア人は、ドイツ国家への納付金と会社の収益を通じて、自分自身と他の人々の分を三倍も支払っています。おいしいタイ料理には、本物のタイ人のプロが必要です。ドイツで主婦になったバーの女性たち（彼女たちに何の反感もありませんが）でも、失業中のドイツ人料理人でも、ドネルケバブの専門家でもありません。彼らは国費で住まいを与えられたり養われたりする必要もなく、アウトバーンを封鎖することもありません。それに、何十万人ものドイツ人がジャンボ機で休暇に押し寄せても温かく迎えてくれるタイにこそ、そのお返しとして、ビザ発給などの優遇リストに載る資格があるのではないでしょうか。

役人の無知や不満、あるいは潜在的な外国人嫌いのせいで、ベルリンがドイツ的なソーセージと

フライドポテトの首都のままでいるべきでしょうか。いいえ、結構です。この街に必要なのは役人の怠慢ではなく、私のタイ人料理人と、ここでおいしい料理を作りたいと願うすべての人々への就労許可なのです。肌の色を問わずに!

敬具

ノルベルト・フランケンシュタイン

MAOTHAI Gaststätten-Betriebsgesellschaft mbH Berlin · Wörther Str. 30 · 10405 Berlin

---

ドイツ語の原資料の翻訳